

ピンインの誤読とその対処法について-中国語初学者に対する教育実践

About Errors of Pronunciation by Chinese Spelling System PINYIN(拼音) and Correcting - Education Practice to Lower - Level Student

田村 新

TAMURA Arata

Key words: ピンイン ローマ字読み 母音三角形

1.はじめに

中国語は漢字によって記述がなされる。この漢字は文字学上、意味を表す表意文字に分類される。発音を表す表音文字とは異なり、漢字そのものは基本的に発音を表さない^[1]。このため古来より「反切」^[2]や「注音字母」^[3]といった方法で漢字の発音を表す工夫がなされてきた。中華人民共和国が建国されるとローマ字によって発音を表す「ピンイン」が使用され、今日に至る。ピンインはローマ字であるため反切や注音字母と比べると学習しやすいという利点がある。しかしながら、日本語を表記するのに使用されるローマ字の音や、英語の表記で使われるローマ字の読み方と異なる点があるので、学習者はかえって誤った発音をすることがある。

本稿ではどのような要因にかかわらず、学習者の誤った発音を誤読とし、誤読とその対処法についての筆者の教育実践を紹介する。読者諸氏の批判を仰ぎ、誤読を少しでも防ぐための効果的な教授法の構築を目指すものである。

2.誤読を引き起こす要因

本論に入る前に、中国語学習者が誤読を引き起こす要因について整理をしておきたい。中国語学習者が誤読を引き起こす要因については、次のような三点があると思われる。これらの要因が単独にもしくは複合的に作用し誤読を引き起こすと考えられる。

a.技術的要因

b.干渉的要因

c.構造的要因

本稿の a.技術的要因とは日本語では基本的に使用されていない音^[4]であるため誤読を引き起こすことをここでは指す。例えば、そり舌音^[5]は日本語では使われない音なので、誤読が多い。また、子音だけでなく、母音^[6]についても同様の誤読が見られる。単母音“e”[ɤ]も日本語にはない音であるので、誤読が多い。このような要因による誤読は、どのように発音するのかを指導し、繰り返しの発音練習と発音の矯正によって定着させることが肝要かと思われる。

b.干渉的要因は母語の干渉等によって誤読を引き起こすことをここでは指す。先ほど例に挙げた単母音“e”を、「エ」と誤読する学習者がいる。これは単母音“e”[ɤ]を調音できないという技術的な難しさではなく、日本語の「エ」をローマ字の e で表記することに原因があるように思われる。一方で、複母音“ei”や“ye”は[ei]もしくは[ie]と発音し、[ɤi]と誤読することはほぼないように思われる。

このような誤読は母音のみでなく、子音にも存在する。例えば“c”[tsʰ]は、“cu”[tsʰu]や“ca”[tsʰa]では誤読されることはあまりない。しかしながら、“cong”[tsʰuŋ]は「コン」と誤読する学生が多数見られる。

c.構造的要因とは本稿ではピンインというシステムが持つ構造的な問題により起こる誤読を指す。これは一つ

の文字が複数の音を持つというピンインの特性による。前述の“e”の場合は[x]と発音される。一方で、複母音では[e]と発音され、“er”では[ər]と発音される。さらに、松岡・古川 2004 : 61-62 によれば鼻音を伴う母音“n”もしくは“ng”と共に発音される際にも[a]と発音される^[7]。つまり、この“e”は[x] [e] [a]の三種類の音を表すのに用いられるのである。

“i”は歯茎硬口蓋音“j”[tɕ]、“q”[tɕʰ]、“x”[ç]に続く“i”や介音^[8]“i”は[i]であるが、そり舌音の“zh”[ʈʂ]、“ch”[ʈʂʰ]、“sh”[ʃ]、“r”[ʐ]に続く“i”は[ɿ]、歯茎破裂音の“z”[ts]、“c”[tsʰ]、“s”[s]に続く“i”は[ɨ]であり、“i”には[i] [ɿ] [ɨ]の三種類の音があることになる。

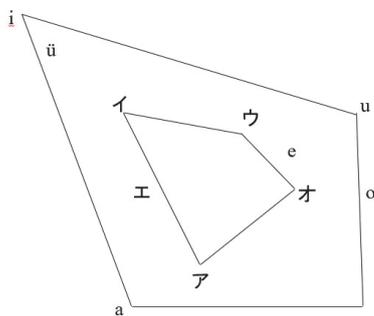
また、“a”についても、“yan”は[iən]、“yang”は[ian]と発音する。同じ a が使われていることから、“yan”を[ian]と誤読する学生が多く見られる。

干渉的要因や構造的要因によって引き起こされる誤読は繰り返しの発音練習や矯正もさることながら、学習者の意識に訴えかける事も大切だと思われる。つまり、学習者自身が想像するようには“e”“i”“a”は発音されないということを学習者に意識させる必要があるのである。その意識を変える方法として筆者は視覚に訴えるように工夫をし授業を行った。

3. 母音三角形

ここで筆者が視覚に訴えるべく用いた手段を紹介する。図1は平井 2012 : 28にある中国語の単母音と日本語の母音とについて舌の最高部を図示したものをもとに作成したものである。

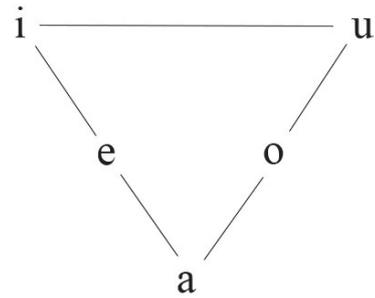
図1 中国語と日本語の母音



この図を使うことで日本語の母音と中国語の母音の舌の位置の違いが分かるが、少々複雑な形であり、一目で分かるとは言い難い。図2は日本語の母音を単純に表したものである^[9]。ここではこの図を母音三角形と呼ぶこ

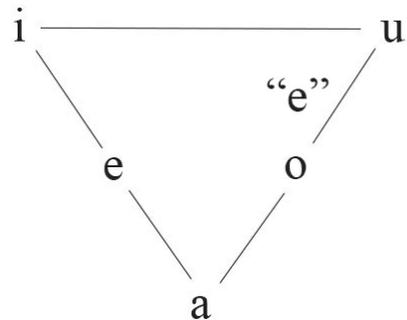
ととする。

図2 日本語の母音三角形



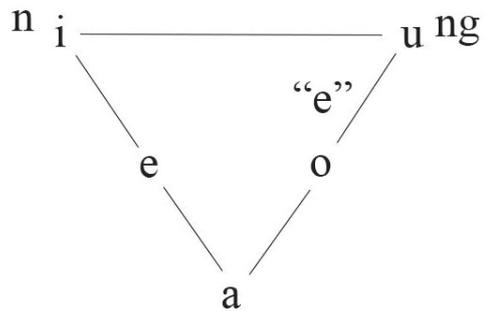
この図2に日本語にはない単母音“e”を加えたものが図3である。日本語の母音と区別すべく引用符“”を加えた。

図3 中国語の単母音“e”を加えた母音三角形



このような母音三角形に、鼻音を伴う母音を説明する際には図4のように、“n”と“ng”を加えたものを用意した。

図4 母音三角形と“-n”、“-ng”



このような母音三角形を使用し、誤読をしやすい音に意識を向けさせるべく授業を展開した。

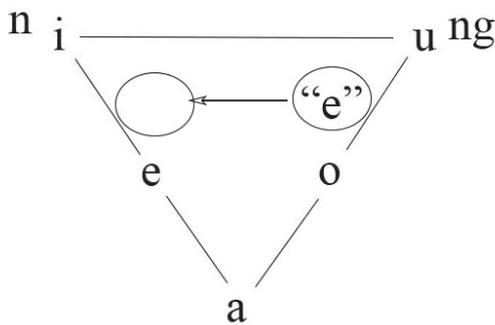
4. 教育実践例

それでは、先に紹介した母音三角形をどのように使用し授業を展開したのか紹介したい。

4.1.“e”について

ピンインで“e”は前節で紹介したように、単母音と複母音、さらには韻尾^[10]に鼻音“n”や“ng”を伴うもので音が異なる。授業では“e”はあくまで単母音の[x]が基本であることを強調し、なぜこの[x]が[e]へと変わるのかについて説明をする。その説明のために用いたのが図5である。細線が“ian”，太線が“iang”の軌跡を指す。“i”と“n”に挟まれた“a”はきわにある“i”と“n”の音の影響を受け、“a”が発音されるaの場所の手前、つまりeの場所で、“n”に向けて舌の位置が動き発音が調音される。このため、[iɛn]と発音される。一方、“iang”は“i”から“ng”へ舌が動くときに、一方向に移動するため、aの位置で“a”を調音できる。このため、“iang”は[iɑŋ]と発音される。

図5 “e”の音変化について

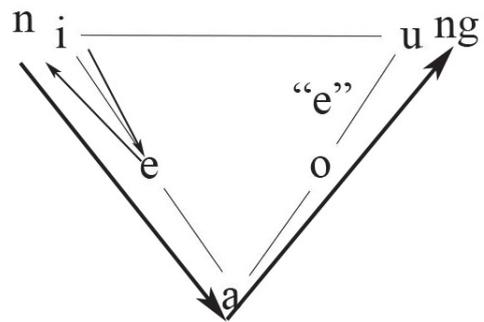


本来[x]はoとu間で調音される音である。それが、きわの音である“i”と結びつく時に、“i”の影響を受けて、“e”が前寄りて調音される。このような結果，“ie”は[iɛ]と発音するようになる。“ei”も同様に[ei]と発音する。鼻音を伴う韻尾“-n”と“e”が結びつく際にも同様の変化が起こり、鼻音を伴う韻尾“-ng”と結びつく際には“e”が調音される部位と“-ng”の調音される部位が近いことから変化が起こらない。

4.2.“ian”と“iang”について

同じ“a”であるが、“i”と鼻音を伴う韻尾で挟まれる時、“ian”は[iɛn]，“iang”は[iɑŋ]と調音される。しかしながら、多くの学習者が“ian”を[iɑn]と誤読する。それについての説明は図6を用いて行う。

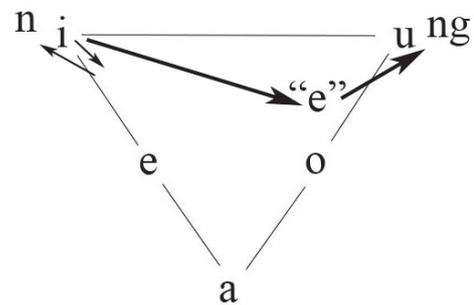
図6 “ian”と“iang”



4.3.“in”と“ing”について^[11]

“in”と“ing”は松岡・古川 2004 : 61-62 によれば、[iən] [iəŋ]とされる。これは元々が“en”と“eng”に介音“i”がついたものだからである。この二つの音の違いは韻尾の[n] [ŋ]の違いのみとなり、学習者にとっては非常に区別しにくい音といえる。しかしながら、実際の発音を聞くと“in”は短めに発音されるため[a]がほとんど発音されない。“ing”は長めに発音されるので、[ə]が比較的是っきりと聞こえる。さらにいえば、この[a]よりは単母音の[x]のような音で発音される。この点を強調し、授業では“in”を[in]と、“ing”を[ixŋ]と発音するように指導をする。このときに使用するのが図7である。

図7 “in”と“ing”



“in”の舌の軌跡を細線で、“ing”の舌の軌跡を太線で表した。短めに発音される“in”は音が短いため、“i”を調音してすぐに“n”を調音する。そのために、本来発音されるはずの[a]が調音されない。一方、“ing”は長めに発音されるだけでなく、“i”と“ng”の軌跡上に“e”が存在するため、単母音の“e”[x]を調音することができる。このような理由から、“ing”は[ixŋ]のように発音されると指導する。

5.まとめ

本稿では中国語学習者の誤読とその対処法について、筆者の教育実践を紹介した。母音三角形を使用しての実

実践活動であるため、目下の所、母音のみで、さらに干渉的要因や構造的要因によって引き起こされる誤読の教育実践となっている。今後、技術的要因で引き起こされる母音の誤読や構造的要因で紹介した“cong”のような子音の誤読について、どのように教えるのが効果的であるのか研究を進め、実践をしていきたい。

注

- 1 漢字の構成などを表す六書の形声文字には声符があり、この要素は発音を表す。つまり、声符が共通する漢字は「青」「精」「静」「清」「請」のように発音が同じとなることがある。
- 2 例えば、「東徳紅切」のように表音する方法を指す。日本漢字音を例として紹介する。「東」*to*の子音を表す要素が「徳」*t*、母音などを表す要素が「紅」*ou*のようにである。
- 3 漢字の旁などを用いて表音をする記号のこと。「東」であれば「ㄊㄨㄛˊ」のように表す。現在は台湾などで使用される。
- 4 音声学的にないという意味ではなく、音韻論的に使用されないという意味である。日本語の「シ」は[ei]であるが、発音する時の条件によっては中国語の“shi”[ʃɿ]のように発音される場面もあるかもしれない。しかしながら、日本人はこの“shi”を[ʃɿ]ではなく[eɪ]という音として認識するはずである。
- 5 本稿で使用する中国語学の用語については、特に断りがない限り、松岡・古川 2004 で翻訳するのに使用された用語によるものとする。
- 6 中国語学では子音のことを声母と呼び、母音のことを韻母と呼ぶ。特に、韻母では *n* や *ng* といった子音を伴うことがあり、母音と呼ぶには問題があるように思われる。しかしながら、本稿では便宜的に子音・母音と呼ぶこととする。また、本稿では特に断りがない場合ピンイン表記で使われるローマ字は引用符“”でくくり、日本語の発音を表すために用いられたローマ字には引用符を付けないものとする。
- 7 ただし、実際には *-n* と結びつく際には前よりで、*-ng* と結びつく際には奥よりの音として聞こえる。
- 8 介音とは子音とメインの母音（主母音）を仲介する母音のことで、*ie*[ie]の“*i*”や *uo*[uo]の“*u*”，*üe*[ye]の“*ü*”がこれに当たる。
- 9 このような図は松崎・河野 1998 : 101 や遠藤 2000 : 29 などで見られるが、仮名を使うかローマ字を使用するかで異同がある。また城生 1988 : 39 では三角形

ではなくホームベース型の略図を使用している。

- 10 中国語の母音は、介音・主母音・韻尾の3つの要素からなる。韻尾とは音節末の母音もしくは子音（普通話の場合は本稿で紹介したように *-n* と *-ng*。方言によっては、例えば広東語では *-n*、*-ng*、*-m*、*-t*、*-k*、*-p*）がくる。
- 11 “*in*”と“*ing*”については緒方 2011 を参照されたい。

参考文献

- 遠藤織枝 2000. 『概説日本語教育 改訂版』。東京：三修社。
- 平井勝利 2012. 『教師のための中国語音声学』。東京：白帝社。
- 解芳 2015. 『普通話语音发声』。太原：北岳文艺出版社。
- 城生佰太郎 1988. 『音声学』。東京：アポロン音楽工業株式会社。
- 李明 石佩雯編 1986. 『汉语普通话语音辨正』。北京：北京语言文化大学出版社。
- 松崎寛・河野俊之 1998. 『よくわかる音声』。東京：株式会社アルク。
- 松岡榮志・古川裕 2004. 『現代中国語総説』。東京：三省堂。
- 緒方哲也 2011. 「中国語の韻尾鼻音「*in*」・「*ing*」の音声分析と聞き分けの指導法について」, 東北大学中国文学研究会『東北大学中国語学文学論集』16 : 211-227 頁。
- 斎藤純男 2006. 『日本語音声学入門 改訂版』。東京：三省堂。